

2011 年 IFTA ボスニア大会参加感想文

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 チーフ・テクニカルアナリスト 宮田直彦氏

2011 年 IFTA 大会（第 24 回大会）に参加した宮田直彦さんの大会参加感想文です。
同大会は 2011 年 9 月 22 日（木）～24 日（土）までの 3 日間、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボで
開催されました。宮田さんは同大会にスピーカーとして参加し、15 人のスピーカー中、第 4 位という高
い評価を受けました。

Innovating Financial Markets Analysis

IFTA 24th Annual Conference
Sarajevo | Bosnia-Herzegovina
22-24 September 2011

H4Md

IFTA 24th ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011 ■■■■■■



IFTA
International Federation of Technical Analysts



2011 年 IFTA ボスニア大会に参加して

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
チーフ・テクニカルアナリスト
宮田直彦

昨年私は IFTA ボスニア大会(9 月 22~24 日)にスピーカーの一人として、初めて参加しました。

毎年 1 回開催される IFTA 大会は、テクニカル分析および関連するトピックの唯一の世界大会です。互いのマーケット見通しを交換する場であると同時に、新旧分析手法の融合や、新しいメソッドの提唱が行われたり、近年では行動ファイナンスに関連する議論も活発です。

IFTA 第 1 回大会は 1988 年、東京で開催されました。以降はテクニカルアナリスト協会が存在するいずれかの国で毎年 1 回開かれています。一昨年はパリ、昨年はベルリンでした。今回のサラエボ大会は南東欧圏では初めての開催で、サラエボ・テクニカルアナリスト協会(まだ発足して数年、会員は 10 名足らず)の招致により実現しました。

欧州以外の地域からアクセスがきわめて悪い上(行きはウィーン、帰りはミュンヘンで乗り継ぎでしたが、4~6 時間も乗り継ぎ便を待たなければなりません)、治安にもやや不安がある(15 年前までは内戦状態であり、日本の外務省は未だに好ましくない渡航先としていると聞きます)ためか、参加者数は例年の半分程度の 80 名程でした。日本からの参加者は私を含めて 4 名(大瀧理事長、国際部長の本間さん、SMBC 日興証券の吉野豊さん)、私と吉野さんがスピーカーでした。

大会はボスニアの Head of finance minister(日本でいえば財務大臣に当たるのでしょうか)の開会の辞で始まり、最初のプレゼンテーションはボスニア・ヘルツェゴビナ中央銀行総裁によるものでした。如何に経済を立て直していくか、あるべき金融のあり方は何か、ということをお話されましたが、正直我々にはわからない内戦・分裂の残した傷の深さが感じられました。街中を歩けば、建物の壁には銃弾の痕がそこかしこに残っており、ここがついこの間まで激戦地であったことが窺えました。また日本でもかつて見かけた傷痕軍人、片足のないうら若き女性などが物乞いをする姿には、同情を禁じえませんでした。

初日には 4 コマのセッションがありましたが、英国のスピーカーによる「East meets West」というプレゼンは、日本発祥のローソク足分析をマーケット・プロファイルというメソッドと組み合わせることによって、マーケットの短期ターニング・ポイントを発見することができる、というものでした。内容自体にはさほどの新味はありませんでしたが、ほんの 15 年ほど前に世界に広められたローソク足が今やグローバル・スタンダードであり、西洋のバー・チャートは廃れてしまっていることが、改めて確認できました。洋の東西を問わず、良さそうなものは何でも使う、という欧米トレーダーの貪欲さがひしひしと伝わるものでした。

日興の吉野さんは初日に「一目均衡表」を、私は 2 日目に「エリオット波動の現代のグローバル金融市場への実践的応用」と題し、各 1 時間程プレゼンしました。吉野さんも私も、時間予測・日柄分析にフォーカスしたのですが、それらは欧米ではほとんど行われていないものであり、聴く側には新鮮だったようです。大会期間中は偶々世界のマーケットが大荒れであり、その中で私達が話した短期・中期の為替・株式・債券などのマーケット予測は、大変興味を引くものとなりました。ボスニア協会の皆さんも大変喜んでくれ、私たち日本代表は大いに面目を施した次第です。

The Nippon Technical Analysts Association, Non-Profit Organization

3-3 Kabuto-cho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, Japan 103-0026
Phone 03-5847-2231 Fax 03-5847-2232 E-mail office@ntaa.or.jp



大会期間中、12のプレゼンテーション、3つのグループセッションがあり、それぞれ興味深いものでしたが、もっとも印象的だったのはバイサイドによるプレゼンでした。

最終日にはHSBC銀行・テクニカル分析・グローバル部長のMurray Gunn氏による「トレンドウェーブ・トレーディング：トレンド・フォローの規律に従いながらエリオット波動のパワーを利用する」、締めくくりとしてDavid Keller氏による「フィデリティにおけるテクニカルリサーチ：その舞台裏」があり、いずれもバイサイドの視点から、如何にテクニカル分析が有効か、それをどのように実践に役立っているか、ということが趣旨でした。Gunn氏はエリオット波動で相場の方向性を予測し、それに基づき実際にトレーディングを行い利益を追求している、というものでした。

Gunn氏によれば、「儲けるためには第3波かC波に如何にうまく乗るかが重要」であり、「ファンダメンタル的事象は一切考慮せず、チャートが暗示することにシンプルに従うべき」ということでした。それらは、この大会ならではの極端な発言に聞こえないでもありませんが、ロスカットルールをうまく使いながらポジションを管理し、実際にマーケットの中で利益を出している方のプレゼンには刺激を受けました。日本でテクニカル分析を専門に行うチームあるいは個人は、ほぼ100%セルサイドに所属しています。しかし考えてみれば、バイサイド自身がテクニカル分析チームを抱え、自らのポジションに精緻なテクニカル分析を導入することは相当に効率的ですし、外部にポートフォリオなど手の内を明かす必要もないことから守秘義務上もメリットがあります。果たして日本の銀行が、テクニカル分析の部署を抱えるような時期が今後来るのだろうか？ と思いました。

Keller氏のプレゼンテーションも、バイサイドにおけるテクニカル分析利用の大きな価値を訴えるものでした。フィデリティがボトムアップであることはもちろんですが、創設以来「チャートを見ないPMはダメ」という文化があるそうで、かの有名なピーター・リンチも毎日チャートを見てインスピレーションを受けていたとのこと。現在、ボストン本社には160人のPMがおり、アナリストのチーム、Keller氏の率いるテクニカル分析チーム、クオンツ分析チームが三位一体となって、PMに投資助言を行っています。「ボトムアップのアナリストの調査対象は会社であり、常に背景や理由(why)を求める。一方、テクニカルのアナリストの調査対象は株そのものであり、重要なものは今後株価がどのようになるか(how)である」、「一般的に投資家はマクロ→セクター→株の順に考えて行動するが、投資の現場で勝つには逆の発想が必要だ。つまり、最初に株を考え、次にセクター、最後はマクロである。これはもちろんマクロの否定ではないが、実際のマーケットのトレンド転換は個別の株から始まる。マクロの変化が目に見えてからでは投資タイミングを失う」、「ファンダメンタルのリサーチは深く、カバレッジ範囲は限定的。一方、テクニカルは個別企業に対する知識は浅いが、カバレッジは無限。その中間の立場がPMだ。ファンダメンタルとテクニカルをベスト・ミックスを目指すことが重要」、など印象的な言葉が並びました。テクニカルメソッドとしては主にP&F(ポイント・アンド・フィギュア)を使い、この銘柄は強気型、保ちあい型、弱気型、天井圏、底値圏、という風に銘柄ごとに分類し、シグナルが出たときに買い・売り、あるいはホールドという助言をあらゆる多種多様なマーケット及び個別銘柄、セクターに関しておこなっているということでした。また、マーケット間、セクター間、銘柄間のリラティブ・ストレングスを特に重視しており、スイッチングのタイミングを常に窺っているそうです。

ボスニア大会での3日間、参加者全員が同じホテルに泊まり、同じものを見聞きし、同じものを食べて飲むことでお互いの親睦が深まりました。そのうちの何人かとは、帰国後もメールなどを通じた交流が続いています。その中の一人である英国テクニカルアナリスト協会会長(Deborah Owen 女史)は、嬉しいことに私のプレゼン内容を今年の5月に出版してくれました。このように、IFTA大会は私にとり、普通ではなかなか得られない人脈を作る機会となりました。今後決して忘れることのできない、本当に貴重な体験をさせていただいたことを、NTAA関係者の皆様に感謝申し上げます。

The Nippon Technical Analysts Association, Non-Profit Organization

3-3 Kabuto-cho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, Japan 103-0026
Phone 03-5847-2231 Fax 03-5847-2232 E-mail office@ntaa.or.jp

世界の強豪スピーカーに交じり、 15人中、第4位と高評価だった宮田さんの講演



H&Ad

ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011

INTALUS.

update
Advanced Trading Tools

IFTA
International Federation of Technical Analysts

IFTA 24th ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011

H&Ad

IFTA 24th ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011

update
Advanced Trading Tools

IFTA
International Federation of Technical Analysts

MARKET ANALYST.
Advanced Trading Tools

IFTA
International Federation of Technical Analysts

TRA

IFTA
International Federation of Technical Analysts





IFTA
ANNUAL CONFERENCE
BOSNIA-HERZEGOVINA
SEPTEMBER 2011

INTALUS. updata
Advanced Trading Tools

IFTA
International Federation of Technical Analysts

IFTA
International Federation of Technical Analysts

IFTA 24th ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011

INTALUS. updata
Advanced Trading Tools

MARKET
ANALYSIS

omborg



TTC
Think Tank Consultants

IFTA 24th ANNUAL CONFERENCE
SARAJEVO | BOSNIA-HERZEGOVINA
22-24 SEPTEMBER 2011









日豪英3大協会親睦ディナー後の帰路
英国協会 デボラ・オーウェン会長と







ボスニア協会イルファン・ポリマック会長、IFTAロルフ・ウェツァー理事ら



MTA（米国テクニカルアナリスト協会）デイビッド・ケラー会長と



